

PDCA グループウェア

「インタラクト Inter@ct」

インストールマニュアル

2002 年 11 月発行

CONTENTS

- 1、「インタラクト Inter@ct」の動作環境
- 2、インストール方法
- 3、データベースのバックアップ

ブ레인ウェア株式会社
<http://www.brain-web.co.jp/>

1、「インタラクト Inter@ct」の動作環境

「インタラクト Inter@ct」をご購入いただきましてありがとうございます。

「インタラクト Inter@ct」はLinux OS上で稼動するグループウェアです。インストールに先立ち、貴社のサーバーが下記の条件を満たしていることをご確認ください。

ハードウェア環境

- ① CPU： C e l e r o n 8 0 0 M H z 以上
推奨は、P e n t i u m III 8 6 6 M H z 以上
- ② メモリー： 1 2 8 M b 以上
推奨は、2 5 6 M b 以上
- ③ ハードディスク容量： 1 0 G b 以上
- ④ その他
 - ・ C D - R O M ドライブ
 - ・ バックアップ装置
(必須ではありませんが、ハードウェア障害からデータを保護するための手段として奨励します)

ソフトウェア環境

① オペレーティングシステム： `Linux`

2002年11月現在、当社において動作確認がとれているLinuxディストリビューションは以下の通りです。

- ・ `RedHat Linux 7.1`, `RedHat Linux 7.2`
- ・ `TurboLinux 6.5 Server`, `TurboLinux 7 Server`

② Webサーバー： `Apache 1.3.x`

2002年11月現在、当社において動作保証がとれているバージョンは `1.3.26` です。

③ データベース： `PostgreSQL 7.1.x`

2002年11月現在、当社において動作保証がとれているバージョンは `7.1.2` です。

(`PostgreSQL`のキャラクターセットが `EUC` で稼動することが条件です)

④ スクリプトエンジン： `PHP 4.x`

2002年11月現在、当社において動作保証がとれているバージョンは `4.1.2` です。

- ・ 日本語関連処理関数 `mb-xxxx` が組み込まれていることが条件です。
- ・ 「インタラクト Inter@ct」では、いくつかの機能でファイルのアップロード処理を行っています。したがって、`php.ini` の中でファイルのアップロード関連の設定値をアクティブにして、PHPを動作させていることが条件です。

⑤ その他： `ZendOptimizer 2.0.1`以降

「インタラクト Inter@ct」では、プログラムの実行速度向上等の理由により、Zend社の「`Zend Encoder 3.0`」を使用して、PHPのプログラムソースをバイナリー化していますので、これらのプログラムを動作させるために、Zend社の「`ZendOptimizer 2.0.1`」以降が必要になります。

ソフトウェア環境の構築方法については、別紙の「インタラクト Inter@ct」環境設定ガイドをご参照ください。

2、インストール方法

「インタラクト Inter@ct」のインストール方法及び基本設定方法についてご説明します。尚、ここでご説明するインストール方法は、Webサーバー機能（Apache）とデータベース（PostgreSQL）が同一のマシン上で稼動していることが前提になっています。貴社の環境において、Webサーバー機能とデータベースが別々のマシンで稼動している場合は、ここでご説明するインストール方法は適応できません。別途、弊社のサポート窓口にお問合せください。

Stage 1 プログラムのインストール

「インタラクト Inter@ct」のインストールCDから、必要なファイルをサーバーにコピーします。このStageの作業は、サーバーに **root** でログインして行います。尚、インストールの過程で、貴社のサーバー環境に関するいくつかの情報を入力していただきます。事前に、下記事項を調べておいてください。

- ・ Apacheのドキュメントルート
- ・ Apacheを実行しているユーザーとグループ

注1) 説明の中で記されているLinuxのコマンドは、Turbolinux 7 server によるものです。貴社のサーバー環境において、異なる部分があれば、適宜読み替えてください。

- ① サーバーに **root** でログインします。
- ② 「インタラクト Inter@ct」インストールCDをサーバーのドライブにセットし、マウントします。

```
[root@xxxx]# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

- ③ インストールCDをマウントしたディレクトリに移動し、インストールスクリプトを実行します。

```
[root@xxxx]# cd /mnt/cdrom
```

```
[root@xxxx]# ./install_euc.sh
```

インストールが開始されます。次ページの画面イメージを参考にして、貴社のサーバー環境に関する情報を入力してください。

注2) 入力に際して、メッセージが表示されますが、これらは全て日本語EUCとなっています。貴社のサーバーが日本語EUCが表示できない設定になっている場合は、**install_en.sh** を実行してください。

```

*****
*   << InterAct Ver1.0 のインストールを開始します >>
*
*   インストールの流れは下記のようになっています。
*
*   Stage1. このシェルを実行し、Interact のインストール用
*             ユーザーアカウント作成、プログラムのコピーを
*   Stage2. Web ブラウザーから、Interact の基本設定を
*             行います。
*   Stage3. 住所検索用データを Interact のデータベースに
*             コピーします。
*
*   尚、インストールを実行するには、事前にサーバー
*   基本環境を構築しておく必要があります。
*   また、Stage1, Stage3 は、必ず root で実行してください。
*   詳しくは、インストールマニュアルをご参照ください。
*
*****

InterAct のインストールを開始します。よろしいですか? (yes/no)
-> yes

Web サーバーの DocumentRoot を指定してください。
( 初期値は /usr/local/apache/htdocs です) ->

Web サーバーの実行ユーザーを指定してください。
( 初期値は nobody です) ->

Web サーバーの実行グループを指定してください。
( 初期値は nobody です) ->

InterAct のインストール用ユーザーアカウント [interact] を作
成します

プログラムのコピーを開始します

*****
*
*   インストールの Stage 1 が完了しました。
*   続けて、Web ブラウザーからステップ 2 を実施してください
*
*   URL は
*   http://サーバー名/interact/install/index.htm
*   です。
*
*****

```

開始する場合は **yes** と入力して
Enter キーを押してください。
no を入力すると中止されます

Apache のドキュメントルートは絶対パス
で入力してください。初期値のまま
でよい場合は、何も入力せずに
Enter キーを押してください。

Apache の実行ユーザー及び実行グル
ープをそれぞれ入力して **Enter** キー
を押してください。初期値のまま
でよい場合は、何も入力せずに **Enter**
キーを押してください。

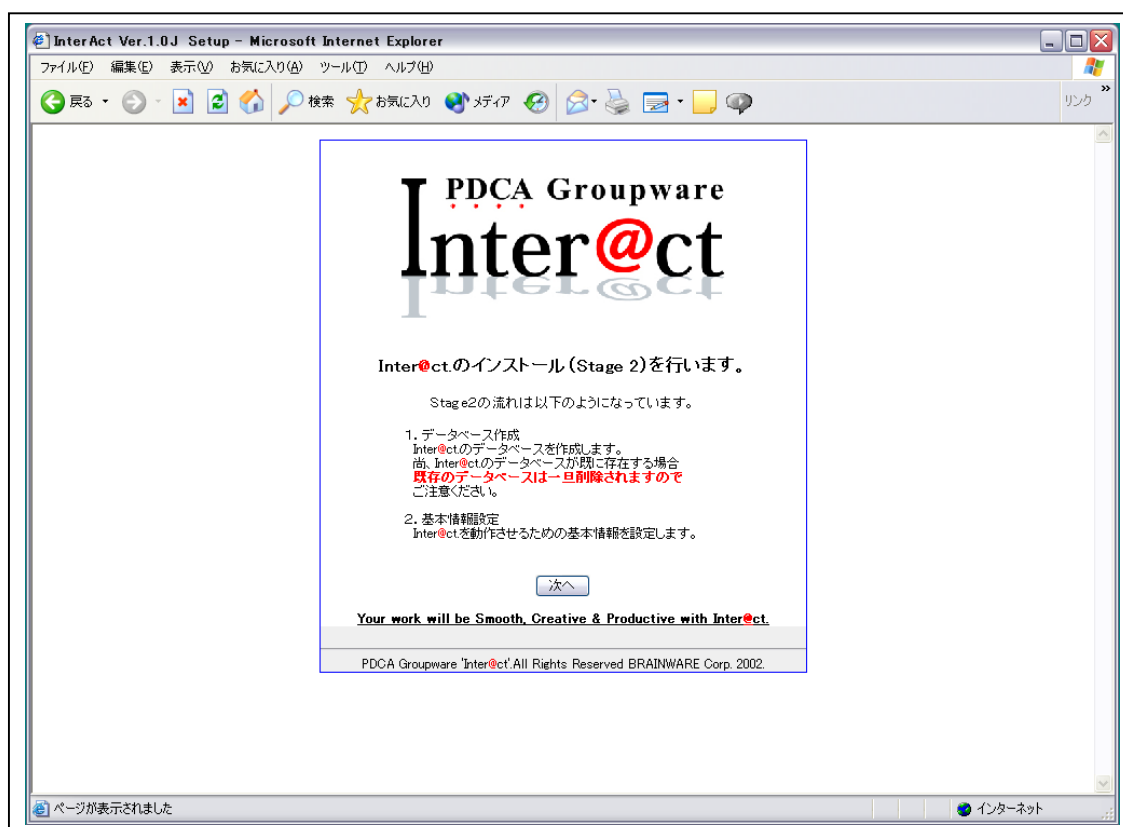
以上で、Stage 1 は完了です。引き続き Stage 2 に移ります。Stage 2 は Web ブラウザーでの作業になります。尚、Stage 3 では再びサーバー作業となりますので、画面はこのままにしておいてください。

Stage 2 データベースの構築及び初期設定

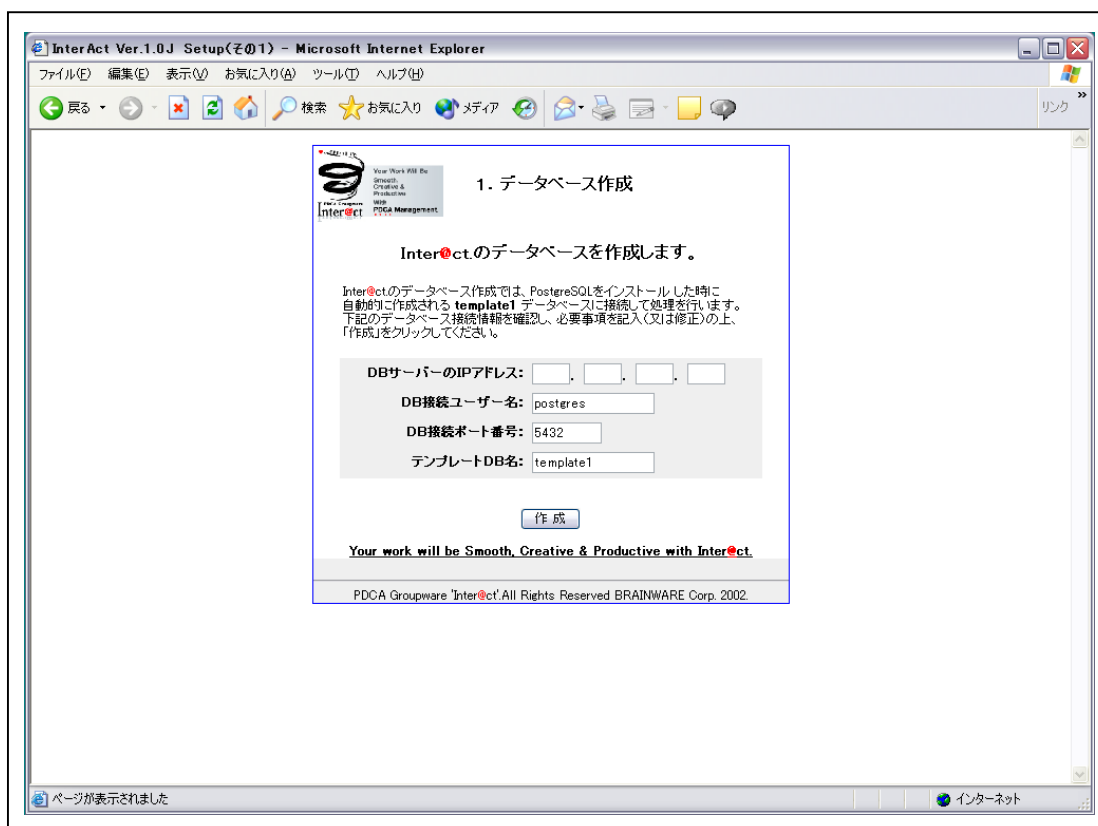
「インタラクト Inter@ct」のデータベースを作成し、基本情報設定を行います。このステージはWebブラウザから作業しますので、Stage 1でインストールしたサーバーにアクセスできるパソコンでWebブラウザを起動し、以下のURLにアクセスしてください。

URL : http://「サーバー名又はIPアドレス」/interact/
install/index.htm

すると、Stage 2 のトップ画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックしてください。



① データベースの作成

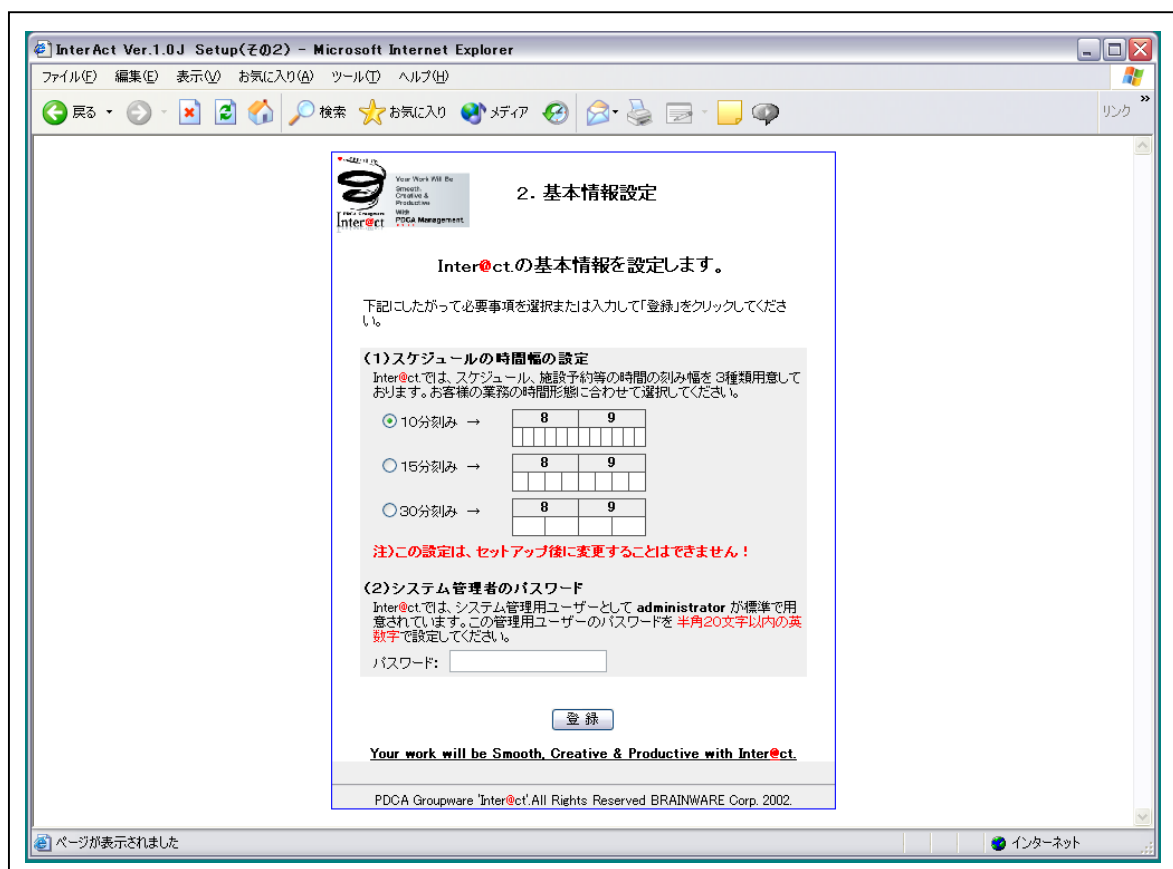


「インタラクト Inter@ct」のデータベースとデータベースユーザー及び各種オブジェクト（テーブル、ビュー 等）を作成します。画面の説明にしたがって、必要事項を入力（又は修正）し、「作成」ボタンをクリックしてください。

- ※ 「インタラクト Inter@ct」のデータベースは **interactdb** という名前で作成されます。
- ※ 「インタラクト Inter@ct」のデータベースユーザーは **interact** という名前で作成されます。
- ※ 「作成」ボタンをクリックすると確認のためのダイアログが表示されますので、よろしければ「OK」をクリックしてください。続けて、この処理に関する注意事項が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

データベース作成が正常に完了すると、完了画面が表示されますので、内容を確認し「次へ」ボタンをクリックしてください。

② 基本情報設定



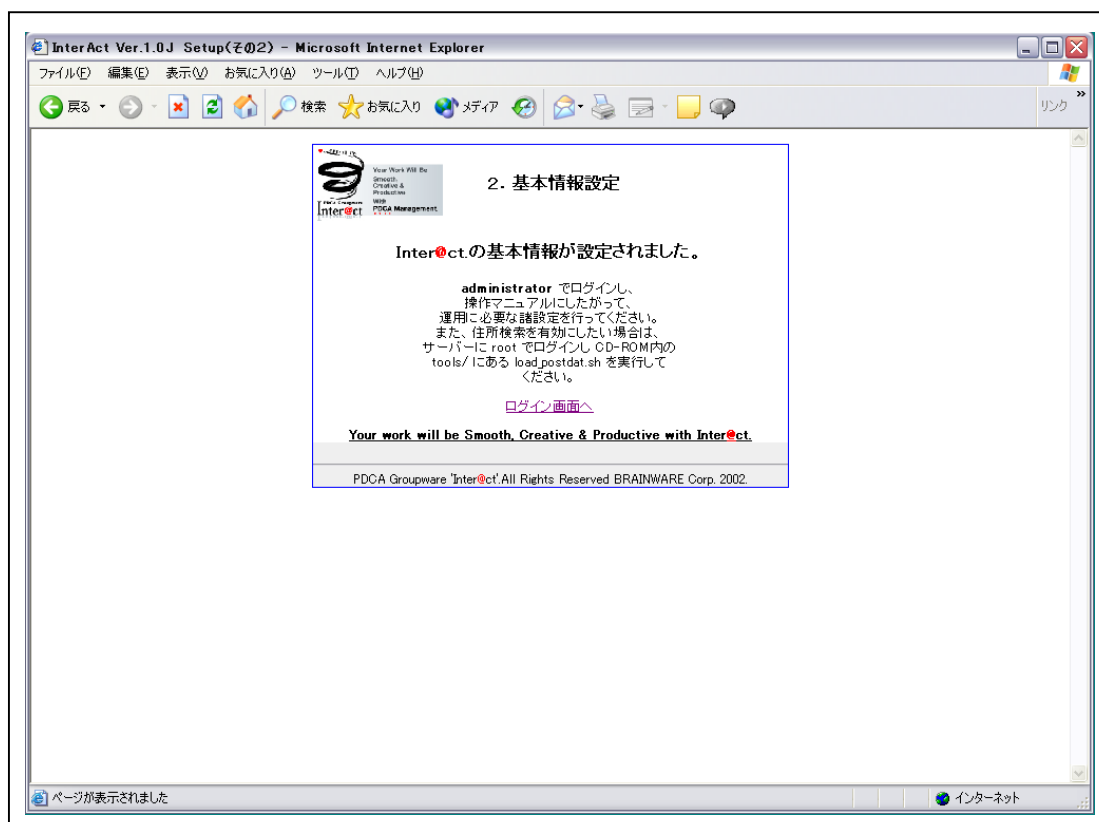
基本情報設定では、2つのことを行います。

1つは、スケジュールの時間幅の設定です。「インタラクト Inter@ct」には、個人スケジュール、施設の予約管理といった時間を管理する機能があります。これらの時間管理をプログラムの内部で効率よく制御できるよう、「インタラクト Inter@ct」では、時間の刻み幅をあらかじめ固定するようになっています。そこで、貴社の就業形態に合わせて、時間の刻み幅を設定していただきます。尚、この設定はインストール後に変更することはできませんので、ご注意ください。

もう1つは、システム管理者のパスワードの設定です。「インタラクト Inter@ct」では、インストール直後にログインするためのユーザーとして「administrator」が用意されています。このユーザーのパスワードをここで設定します。

以上のことを設定したら、「登録」ボタンをクリックしてください。

基本情報設定が完了すると下記の画面が表示され、S t a g e 2は完了です。



引き続き、S t a g e 3に移ります。S t a g e 3は、S t a g e 1 同様サーバーでの作業になります。尚、S t a g e 3 完了後は、「インタラクト Inter@ct」にログインして、運用に必要な諸設定を行いますので、上記の完了画面はそのままにしておいてください。

Stage 3 住所データのインストール

「インタラクト Inter@ct」では、メンバー登録、クライアント登録の際に住所を入力できるようになっていますが、この入力作業を簡素化するために、郵便番号を入力すると、自動的に住所が設定できる仕組みになっています。この動作に必要な住所データをデータベースにインストールします。

もし、貴社の運用においてこの仕組みが不要であれば、このステージはスキップしてもかまいません。

Stage 1で作業したサーバーに移動してください。画面は、Stage 1が完了したになっていることを確認してください。(Stage 1の完了メッセージが表示され、その後にプロンプトが出ている状態です)

```
*****
*
*   インストールの Stage 1 が完了しました。
*   続けて、Web ブラウザーからステップ2を実施してください
*
*   URL は
*   http://サーバー名/interact/install/index.htm
*   です。
*
*****
[root@xxxx cdrom]#
```

- ① 住所データ作成用スクリプトが格納されているディレクトリに移動します。

```
[root@xxxx]# cd /mnt/cdrom/tools/
```

- ② 住所データ作成用スクリプトを実行します。

```
[root@xxxx]# ./load_postdat.sh
```

注1) 住所データ作成には、多少時間がかかります。処理が完了するとプロンプトが表示されます。

注2) C D-R O Mをマウントしたディレクトリが /mnt/cdrom 以外の場合、次ページにしたがって、以下のファイルを エディタ (v i 等) で修正してから実行してください。

- load_postdat.sh
- load_postdat.sql

※ load_postdat.sh の 修正箇所

```
#!/bin/sh  
su - postgres -c "psql -U postgres interactdb <_/mnt/cdrom/tools/load_postdat.sql"
```

赤字の部分、実際にマウントしたディレクトリに変更し、エディタを保存終了してください。

※ load_postdat.sql の 修正箇所

```
copy konm_t_postal from '/mnt/cdrom/tools/postal.data';  
vacuum analyze konm_t_postal;
```

赤字の部分、実際にマウントしたディレクトリに変更し、エディタを保存終了してください。

以上で、「インタラクト Inter@ct」のインストールは全て完了です。インストールCDをアンマウントして、サーバーからログアウトしてください。

```
[root@xxxx]# umount /mnt/cdrom  
[root@xxxx]# exit
```

いよいよ、貴社において「インタラクト Inter@ct」が動き出します。「インタラクト Inter@ct」をご利用いただくには、まず、組織情報の登録、メンバーの登録 等を行っていただく必要があります。Stage 2で設定した「administrator」で「インタラクト Inter@ct」にログインし、これらの登録を行ってください。詳しくは、「インタラクト Inter@ct」管理ツール操作マニュアルをご参照ください。

3、 データベースのバックアップ

「インタラクト Inter@ct」で扱う情報（データ）は、P o s t g r e S Q Lデータベースと、サーバー上のファイルで管理されています。サーバー上のファイルで管理されるものは、ドキュメント機能の文書ファイルと、テーマ、プロジェクト、レポート、ミーティング議事録での添付ファイルです。

サーバーの不慮の障害からこれらの情報（データ）を保護するためには、定期的なバックアップが必要不可欠です。

「インタラクト Inter@ct」のバックアップは、オペレーティングシステムベースのシェルスクリプトC r o nを使って実行されるようになっていきますので、以下の手順にしたがって設定してください。尚、この作業は、サーバーに **root** でログインして行います。

① サーバーに **root** でログインします。

② 「インタラクト Inter@ct」インストールCDをサーバーのドライブにセットし、マウントします。

```
[root@xxxx]# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

③ インストールCDをマウントしたディレクトリ下の **tools**に移動します。

```
[root@xxxx]# cd /mnt/cdrom/tools
```

④ **tools/** ディレクトリ内にある **db_bck.sh** を 適当なディレクトリにコピーします。
(**/usr/local/bin/** 等)

```
[root@xxxx]# cp db_bck.sh /usr/local/bin/ （赤字の部分は適宜変更してください）
```

⑤ バックアップファイル格納用のディレクトリを作成します。作成場所の指定はありませんが、できるだけ大容量（数ギガ）が確保されたパーティションを推奨します。以下は **/usr/local/pgsql/** 以下に作成する場合の例です。貴社のサーバー環境に合わせて、適宜変更してください。

```
[root@xxxx]# cd /usr/local/pgsql
```

```
[root@xxxx]# mkdir interactdb_bck
```

```
[root@xxxx]# mkdir interactdb_bck/img_bck
```

```
[root@xxxx]# chown -R postgres:postgres interactdb_bck/
```

⑥ **db_bck.sh** ファイルを貴社のサーバー環境に合わせて変更します。変更箇所は次ページを参考にしてください。

db_bck.sh ファイルの変更箇所について

```
#!/bin/bash

echo "*****"

echo "*      Interact Database Backup Start                *"
echo "      $(date) "
echo "*****"

bckfile=$(date +%Y%m%d%H%M)
bckdir=/usr/local/pgsql/interactdb_bck/
bckdir2=/usr/local/pgsql/interactdb_bck/img_bck
imgdir=/usr/local/apache/htdocs/interact/data

dbname=interactdb
su - postgres -c "pg_dump $dbname > $bckdir/$bckfile.dmp"
su - postgres -c "vacuumdb --analyze $dbname"

cd $imgdir
tar zcvf $bckdir2/$bckfile.dmp .

echo "*****"
echo "*      Interact Database Backup Fin                    *"
echo "      $(date) "
echo "*****"
```

赤字の部分 → ⑤ で作成した バックアップ用ディレクトリに変更

青字の部分 → Apache のドキュメントルートに変更

- ⑦ **root** の **cron** に **db_bck.sh** の自動起動を設定します。例として毎日 0 : 0 0 にバックアップする方法を記します。詳細は、オペレーティングシステムのオンラインマニュアル 等をご参照ください。

例)

```
[root@xxxx]# crontab -e
```

→ エディタが起動し **cron** の設定ファイルが開きますので次の 1 行を追加します。

```
0 0 * * * /usr/local/bin/db_bck.sh
```

(赤字の部分は **db_bck.sh** をコピーしたディレクトリとしてください)

以上で、設定は完了です。

db_bck.sh ファイルをご覧いただくと判ると思いますが、「インタラクト Inter@ct」のバックアップは、バックアップの起動日時をファイル名としたバックアップファイルを所定のディレクトリに作成するものです。万全をきするには、更に、これらのバックアップファイルを D A T などサーバーとは別の媒体に定期的にコピーしておくことを奨励いたします。また、バックアップファイルはバックアップ起動毎に新たに生成されていきますので、放置しておきますとサーバーのディスク容量を消費してしまいます。不要になった過去のバックアップファイルは定期的に削除するようにしてください。バックアップファイルの自動削除方法については、ご不明な場合は当社サポート窓口にお問合せください。